

A-6

いつまでも口から食事を食べられるように

口腔ケア

嚥下機能

マッサージ

アイスマッサージの効果について

広島市 安佐北区

特別養護老人ホーム たにわ さと 谷和の里介護職員 あきた 秋田 りか 利香

看護職員 原田 和枝

生活相談員 山本 瑞貴

FAX 番号 : 082-812-2112

施設（事業所）
またはサービスの
概要昭和 61 年 8 月創立 38 年目。 平均介護度 4・平均年齢 85 歳。
定員 入所 84 床・ショートステイ 18 床。（いずれも多床室）
法人理念 「ホームは家庭 利用者は家族」

I. <取り組み課題>

- ・「食事を最期まで口から食べて欲しい。」という利用者家族様より希望があった。
- ・嚥下機能の低下により、食事中ムセ込みがみられる方、溜め込みがみられる方、飲み込みが難しくなっている方が増えている。
- ・食事をもっと美味しく安全に食べて頂けるよう口腔ケアを正しく行い、利用者様の嚥下機能の維持・向上を目指す。

II. <具体的な取り組み>

- ・期間：令和 5 年 11 月 13 日～令和 6 年 3 月 29 日
- ・対象者：73 歳女性要介護 5 95 歳男性要介護 4
計 6 名 85 歳女性要介護 4 92 歳女性要介護 4
89 歳女性要介護 3 85 歳女性要介護 4
- 口腔内の環境が悪い方で、嚥下機能が低下してきている方を対象とした。
- ・連携機関：土井ファミリー歯科
- ・取組手順：1. 連携歯科より、正しい口腔ケアについて指導を受ける。
2. 食事前の 3 分間アイスマッサージを行う。
3. 食後に対象者に合った口腔ケアをする。（約 5 分）
- ・評価方法：OHAT（口腔アセスメント）
- ・必要物品：マドラー・口腔ケア用の綿棒・製氷皿
ライト・トレー・コップ・ガーゼ
計約 700 円（1 名分）
- ・取組職員：介護職員 31 名・看護職員 8 名
生活相談員 2 名
- ・ポイント：嚥下機能が低下されている方に対して実施する為、氷水につけたマドラー・綿棒の水気を十分に取って行う。

III. <活動の成果と評価>

(利用者様の変化)

- ・食事摂取量が、7 割から 9 割へと増加された方がいた。
- ・口腔内の環境に改善が見られた。
- ・食事中のムセ込が少なくなりしっかりと食べられるようになってきた為、栄養補助食品の提供を中止となった方がいた。

(職員の変化)

- ・多職種間の連携が密になった。
- ・アイスマッサージを行う事で、口腔ケアに対する意識の向上が見られた。

(活動の評価)

- ・十分に口が開かない・口をずっと開け続ける事が難しい方に対しての対応に苦戦した。

IV. <今後の課題>

- ・口腔内・開口状態の把握を行い、個人に合ったケア方法を行う。
- ・お昼のみで実施だった為、朝・夕も行ないケア回数を増やしていく。
- ・新人職員、ベテラン職員でケアの方法が変わらないように、定期的な研修やマニュアル等を作り職員全員同じケアができる体制作りを行う。

V. <参考資料など>

訓練のためのアイスマッサージ- 目的・効果・対象・方法・注意点などについて - THERABBY
<https://therabby.com/ice-massage-for-swallowing-training/>
 ST 介護職の考え事「口腔内衛生状態の評価方法【OHAT 使用の勧め】口腔機能向上加算のアセスメント・モニタリングに！(hatenablog.com)」
<https://ryo-kobayashi.hatenablog.com/entry/2020/07/10/195456>